南条っ子

南条小学校だより

南条っ子は　進んで学ぶ子
思いやりのある子
力いっぱいやりぬく子

R3.9.29　No.35

目標　ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

○ さつまいも掘り（２年生）

9月28日（火）、2年生が、中庭の畑で育てていたさつまいもの収穫をしました。数はあまり多くありませんでしたが（下の写真、2かご分）、大きいさつまいもが取れました。大きなさつまいもを掘り出した児童は、とてもうれしそうな様子でした。

【「褒めること」と「認めること」】　※保護者向けの内容です。

子供を育てるために「褒めることは大切です」とよく言います。しかし、褒めることが良いとは分かっていても褒め方が分からない。どのような時に褒めればいいのか分からない。思春期になると、なかなか思いが伝わらない…悩みは尽きないものです。しかしこれは大人だけでなく、誰にとっても同じことが言えます。人と関わり生きていく中で「相手の良さを見つける」ことは大切だからです。

そもそも、「褒める」と「認める」の違いは何なのでしょうか。

大人の側からしてみると、この両者の違いはあってないようなものでしょう。「認めてあげようと思って、褒めている」「褒めることは、そのまま認めること」という感覚なのではないでしょうか。

しかし、「認めてほしい」「認めてもらいたい」と強く思っている子供には、そんな大人の言い分は通じないかもしれません。中には「褒めてもらってもうれしくない」といった子供も出てきたりするのです。一体、何が違うのでしょうか？

大人が子供を「褒める」ときは、一般に大人の基準で「褒める」ことが多いように思われます。そして、大人の基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。反対に言えば、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることは稀でしょう。

それに対して、子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のではないでしょうか。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから、大人の基準に達していなくとも「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた基準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりするわけです。

（ 国立教育政策研究所生徒指導リーフ一部抜粋）

＜3つの褒めるコツ＞

1　過程を褒める

例としては、テストやスポーツ等の良い結果に対する「良い点数だったね、勝てたね」と「ずっと頑張ってきたからね」の言葉の違いです。もちろん、結果にこだわることも大切です。しかし、うまくいかなかったとしても、そこまでの努力を褒めてあげてください。

2　感謝の気持ちを伝える

「ありがとう」と素直に気持ちを伝えましょう。どうやって褒めよう…と考えず、だれかのために何かをしてくれたその子を認めることです。

3　当たり前のことで褒める

褒めることは特別なことではありません。日常には人に感謝できることが溢れています。小さなことでも良いですから、しっかり声に出して、褒めてあげてください。

『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』より　※映画の内容が含まれています。

昨年、10月16日から公開されて、大人気となりました。本校の中にも、登場人物の名前を覚え、その難しい漢字を書いたり、イラストの塗り絵をしたり、関連グッズを持っていたりする児童がたくさんいます。

その映画の中で、煉獄さんが、「母上、俺はちゃんとやれただろうか。やるべきこと、果たすべきことを全うできましたか？」という問いかけに対して、「立派にできましたよ」という母親の言葉は、煉獄さんへの最高の褒め言葉だったと思います。母親のその一言で、子どものような笑顔になりました。あの最期の表情は、柱の一人としてでなく、長男としてでもなく、最愛の母を慕う子供の表情ではなかったでしょうか。やっぱり、一番身近な存在である親にしっかり褒められ、認めてもらえることほど、うれしいことはないのではないかと思いました。